

## ▶ **メイデイレディ (MAY DAY READY) = アメリカ**

牝2歳・鹿毛 (アメリカ産・2022年5月1日生まれ)

父 : Tapit = 母 : Nemoralia (母の父 : More Than Ready)

馬主 : 合同会社ケイティルチステーブルズ

調教師 : ジョセフ・リー

騎手 : ランフランコ・デットーリ

戦績 : 全4戦3勝、2着1回

総獲得賞金 : 約1億4,330万円

主な戦績 : '24 ジェサミンステークス (G2) 1着

'24 ブリーダーズカップジュベナイルフィリーズターフ (G1) 2着

2022年5月1日に生まれたメイデイレディはホワイトバーチファームの生産馬で、昨年10月のファシグティプトン・イヤリングセールに上場されて6万ドル(当時約790万円)で取り引きされた後、今年4月のオカラ2歳トレーニングセールで現馬主に32万5,000ドル(約4,600万円)で購入されました。

父のタピット(父プルピット)は現役時にウッドメモリアルステークス(G1)など6戦3勝で、2014年から3年連続で北米リーディングサイアーに輝くなど種牡馬としても大成功を収めています。三冠のベルモントステークスを勝ったトーナリスト、クリエイター、タップリット、エッセンシャルクオリティのほか、ケンタッキーオークスやブリーダーズカップディスタフを勝ったアンタパブル、ブリーダーズカップクラシックなど6戦無敗で2022年のエクリプス賞年度代表馬に輝いたフライトライン、そしてフェブラリーステークス優勝のテストマッタなど数多くのG1馬を輩出しています。

母のネモラリア(父モアザンレディ)はシティオブヨークステークス(G3)優勝馬で、フリゼットステークスやコロネーションステークスで2着、ブリーダーズカップジュベナイルフィリーズターフで3着と欧米のG1戦線でも活躍しました。祖母のアリナはリステッド競走を勝ち、米ファンタジーステークス(G2)で2着。その他の近親にアディロンダックステークス(G2)を勝ったアメリカンロイヤルのほか、リステッド競走の勝馬や入着馬がいます。

メイデイレディはジョセフ・リー厩舎でデビューに向けて調整を重ね、今年8月4日にサラトガ競馬場で行われた牝馬限定の未勝利戦(芝1,700m)で初戦を迎えました。ランフランコ・デットーリ騎手を背に10頭立ての9番人気でしたが、ほぼ最後方から3コーナー手前で進出を開始。最終コーナーで先行勢を射程にとらえると残り200mあたりで先頭に立ち、最後はラブテンポの追撃をハナ差おさえて、デビュー戦を勝利で飾りました。稍重馬場の勝ちタイムは1分46秒3。以降の全戦でデットーリ騎手が鞍上を務めています。

次いで1ヶ月後のリステッド競走、ケンタッキーダウンスジュベナイルフィリーズステークス(芝1,600m)は2番人気での出走。6番手で直線を迎えると力強く抜け出し、2着のベッラヴィニーノに1馬身3/4の差をつけて快勝、良馬場の勝ちタイムは1分35秒3でした。

その1ヶ月後、10月4日のジェサミンステークス(キーンランド、G2、芝1,700m)で重賞に初挑戦となります。ここも2番人気の支持を受け、スタート直後に他馬に寄られて外に振られ後方からとなりますが、3コーナーから徐々に先行集団に接近して直線へ。先に抜け出した内のトータリージャスティファイドに馬体をあわせてかわそうとするところに、後方の外から1番人気のデスティノードロが猛烈に追い込んで3頭横並んで入線し、メイデイレディがハナ差だけ抜け出て激戦を制しました。良馬場の勝ちタイムは1分44秒1。

そして迎えた前走11月1日のブリーダーズカップジュベナイルフィリーズターフ(デルマー、G1、芝1,600m)は、アイルランドのエイダン・オブライエン厩舎所属でモイグレアスタッドステークス、チェバリーパークステークスとG1を連勝中のレイクヴィクトリアが単勝1.7倍の断然人気、3連勝でここに臨んだメイデイレディは14.9倍の3番人気でレースを迎えました。14頭立ての12番枠から出たメイデイレディは最初のコーナーの不利でやや外に弾かれる場面も見られましたが、後方から徐々に前との差を詰めてレイクヴィクトリアの背後を追走。直線に入ってもスムーズに抜け出したレイクヴィクトリアに必死に迫ろうとしたものの、その差はなかなか縮まらず1馬身半差の2着で入線し

ましたが、3着には1馬身の差をつけました。

ここまでの通算成績はいずれも芝の左回りで4戦3勝、2着1回、重・不良馬場の経験はありません。芝1,600mの持ち時計はブリーダーズカップジュベナイルフィリーズターフ2着時の1分34秒5で、デルマー競馬場でこのレースが行われた2017年(1分36秒0(良))、2021年(1分35秒3(良))の勝ちタイムより速い時計となっています。北米レーティング委員会(NARC)によるレーティング(11月3日付)では111で、2歳牝馬部門ではブリーダーズカップジュベナイルフィリーズを勝ったイマーシヴ(117)、レイクヴィクトリア(115)に次ぐ評価となっています。

## ● 馬主：合同会社ケイティリッチステーブルズ (KatieRich Stables LLC)

合同会社ケイティリッチステーブルズは、ラリー&カレン・ドイル夫妻がケンタッキー州に所有するケイティリッチファームズの馬主名義です。ケイティリッチファームズは 2007 年に設立され、さまざまな施設の拡充を経て、競走馬の生産、売却、育成などを行っています。

本名義での主な所有馬にメイデイレディのほか、2022 年の米メイトロンステークス(G3)を制したアメリカンアップル(ケイティリッチファームズ生産)がいます。また、ケイティリッチファームズ名義の生産馬に 2020 年のマンハッタンステークス(G1)など重賞 4 勝のインスティールドリガード、今年のタタソールズゴールドカップ(G1)で 4 着のエlegantマンや、JRA で 3 勝を挙げて現在は兵庫競馬所属のタイミングナウなどがいます。

## ● 調教師：ジョセフ・リー (Joseph Lee)

1962 年 3 月 11 日生まれ、ニューヨークのブルックリン出身。ケンタッキー大学卒業後、D. ウェイン・ルーカス厩舎のもとでキアラン・マクラフリン元調教師やトッド・プレッチャー調教師らとともに経験を積み、1991 年に自身の厩舎を開業すると、1993 年までに 28 戦 3 勝の成績を残しました。その後、マクラフリンがゴドルフィン専属調教師としてドバイに拠点を移すと随伴してそのアシスタントを務めるとともに、ゴドルフィンのオペレーションにも携わるようになります。1995 年にゴドルフィン所有のハートレイク(サイド・ビン・スルール厩舎)が安田記念で来日した際にはスタッフとして帯同。同年にデットーリ騎手騎乗で英セントレジャーを制したクラシッククリシェ(ゴドルフィン所有、ビン・スルール厩舎)の管理も担いました。

加賀武見元騎手・元調教師の娘の鈴代さんとの結婚、ゴドルフィンでの 7 年の勤務を経て、義父の厩舎で働くようになり、日本には 2011 年まで滞在。その後アメリカに戻り、一時期は飼料会社を経営していましたが、2015 年に再びマクラフリン厩舎でアシスタントに。2020 年に同師が騎手エージェントに転身すると、その管理馬を引き継ぐ形で再度、自身の厩舎を持つこととなります。本馬によるジュサミンステークス優勝が調教師として初の重賞勝鞍で、今年の成績は、11 月 26 日現在、28 戦 7 勝、獲得賞金は 129 万 8,703 ドル(約 1 億 8,360 万円)となっています。

自身の厩舎では長男のジョセフ(ジョー)、次男のアンソニーがアシスタントとして働いています。

## ● 騎手：ランフランコ・デットーリ (Lanfranco Dettori)

1970 年 12 月 15 日生まれ。父はイタリアの大騎手ジャンフランコ・デットーリでイギリスでも活躍したことがあり、自身も 1985 年から同国に渡ってルカ・クマーニ厩舎の見習いジョッキーになりましたが、翌年にイタリアに戻って騎手デビューを果たし初勝利を挙げました。1987 年からイギリスで本格的に騎乗を開始、1989 年には 75 勝で見習いリーディングに輝き、翌年からクマーニ厩舎、1994 年からゴドルフィン、そしてジョン・ゴスデン厩舎の主戦騎手となって活躍。1994、1995、2004 年と 3 回、イギリスのリーディングジョッキーに輝くとともに、1996 年 9 月 28 日にはアスコット競馬場で当日の全 7 レースを制覇するという同国競馬史上初めの大記録を打ち立てています。

初の G1 タイトルは 1990 年のクイーンエリザベス II 世ステークスで、イギリスでは英 2000 ギニーを 4 勝(2023 年カルディーンなど)、英ダービーを 2 勝(2015 年ゴールデンホーンなど)、英セントレジャーを 6 勝(2008 年コンデュイットなど)、英 1000 ギニーを 4 勝(2021 年マザーアースなど)、英オークスを 7 勝(2021 年スノーフォールなど)、キングジョージ VI 世&クイーンエリザベスステークスを 7 勝(1995 年ラムタラなど)など数多くの G1 を優勝。フランスで仏ダービーを 3 勝(2005 年シャマーダルなど)、凱旋門賞を 6 勝(2017、2018 年エネイブルなど)、アメリカでブリーダーズカップでクラシック 1 勝(2008 年レイヴンズパス)、ターフ 5 勝(2001 年ファンタスティックライトなど)、アラブ首長国連邦でドバイワールドカップ 4 勝(2022 年カントリーグラマーなど)など世界各国でビッグレースを制し、通算 G1 勝利数は 300 を目前にしています。

昨年限りで引退との報道もありましたが、アメリカに拠点を移して騎手のキャリアを継続しており、今年は同国で 11 月 26 日現在、G1 のサンタアニタハンデキャップ、ジェニーワイリースステークスなど重賞 15 勝を含む 435 戦 77 勝、獲得賞金 1,309 万 6,509 ドル(約 18 億 5,190 万円)で賞金順のリーディングで 12 位につけています。日本での初騎

乗はジャパンカップ(ドラムタップスで 11 着)のために来日した 1991 年で、1996 年シングスピール、2002 年ファルブラヴ、2005 年アルカセットでジャパンカップを 3 勝、2002 年にイーグルカフェでジャパンカップダートを制しました。また、1992 年、1993 年にヤングジョッキーズワールドチャンピオンシップに参加してともに優勝。今回の来日騎乗は短期免許を取得した 2019 年以來のことで、JRA 通算成績は 105 戦 24 勝となっています。